

X03b ぐんま天文台におけるデータ取得、データアーカイブシステム

衣笠 健三、橋本 修、西原 英治 (ぐんま天文台)

ぐんま天文台では、150cm/65cm 望遠鏡からのデータ取得システムとデータアーカイブシステムの開発を行っている。このたび、これらのシステムの試験運用を開始したので報告する。このシステムは、ぐんま天文台の各種望遠鏡、観測装置を統一的な手法で取扱い、各観測装置から取得されたデータを各種ステータスデータを含んだ統一的な形 (FITS 形式) で保存すること、さらに、これらのデータを元にしたデータベースアーカイブを行うことを目的としたものである。これらのアーカイブされたデータは、一般市民から研究者まで広く公開することとし、教育普及活動や研究活動に有効に用いられることを目指している。

このシステムの導入により、150cm/65cm 望遠鏡と各種観測装置との統合制御が可能となる。現在のところ、150cm 望遠鏡と高分散分光器 (GAOES) との統合制御を行い、試験運用を行っている。今年度中には赤外カメラとの統合を行う予定であり、このように随時、各種望遠鏡、各種観測装置をこのシステムに組み込んでいくこととなる。データの公開については、公開天文台であるため多様な要求があることが予想される。そのため、データを一般公開用データと研究用公開データといった2つの方法を用意した。一般公開データについてはアクセスを重視し、一般のPCで取り扱うことのできる形式 (jpg、png など) で公開する。一方、研究用データについては、FITS 形式で配布するものである。

今回の講演では、これらのシステムを紹介する。つまり、データの取得からアーカイブまでのデータの流れ、また、利用方法などを説明する予定である。